



新治小学校だより

学校教育目標：ひびく心 はすむ体 見つめる目

～新治のよさを持続して活かしながら、

よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指して～

令和元年度

8、9月号

令和元年 8月 27日

夏休みの光景から感じたこと

校長 宮本 雅司

梅雨明けが平年よりも遅かった令和元年の夏でしたが、昨年度同様に猛暑の日が続きました。子どもたちは、きっと暑さに負けず、普通の学校生活では得られない貴重な体験や思い出がたくさんできたことでしょう。夏に頑張ったことや経験したことを力にして、これからの生活や成長に活かして欲しいと思います。



夏休みの期間、自治会のお祭りや稲の観察等を楽しんでいる子どもたちの姿にふれることができました。地域行事への参加は、横浜の教育が大切にしている「公共心と社会参画意識」「伝統と文化の尊重」等を育むよさがあります。地域に残る行事を継承していくこと、一つの行事は多くの方々の支えで成り立っていること等を実感し、子どもたちの中にも自分が地域社会の一員であるという意識が高まっていけばと思います。

7月30日の緑区水泳大会は、昨年同様、十日市場小のプールをお借りして、4校(十日市場小、三保小、霧が丘学園、新治小)の4～6年の参加児童が力を出し切って泳ぎました。参加した多くの子が自己記録を更新していました。夏の風物詩とも言える高校野球を観ていても思いましたが、競い合う相手が本気を引き出してくれることに、試合や大会の魅力を感じます。自分ができることに一生懸命取り組むことの大切さ、勝ったり成功したりしたことの成就感、負ける悔しさ、失敗したことへの反省。そういった多様な経験をして学んで成長できるよさを感じます。水泳大会では、私は心の中で新治の子どもたちを応援しているのですが、自分のことだけでなく、自分を引き出してくれる相手への感謝や尊敬の念、今やっていることの意義や価値を教育活動の中では常に大切にしなければとも考えさせられました。

戦後74年となる今年。報道等を通して戦争について考える機会を与えてもらっているのは、日本の夏のよさだと感じます。戦後、昭和天皇が当時の宮内庁長官に話したとされる拝謁記には心を動かされました。よりよい社会を創るために、私たち人間の中にある美しさや愚かさを見つめ、お互いの見方や考え方に学び、知恵を働かせて、日々の問題の解決やより望ましい判断や言動に結び付ける生き方の必要性を感じます。

教職員も、夏ならではの研修ができました。教材の準備、これまでの授業の評価、校外学習の下検分、来年度の新指導要領全面実施で各教科が目指す授業改善の理解等です。

私は、保育園の見学や幼稚園の先生との話が心に残りました。人見知りができる0歳児の感性、じーっと私を見つめて認識しようとしている1歳児、身近な物をさわったり遊んだりしようとしている2歳児、自分で自分の荷物をフックにかけていた3歳児、周囲の子とプール遊びにお絵かきや折り紙にと楽しんでいる4、5歳児。1年生への繋がりを感じたひとときでした。学校とは違い、ゆったりとした時間の流れの中で育まれている園のよさはうらやましく思えました。学校でも家庭でも、大人の都合ではなく、子どもたちが一生懸命に取り組んでいる姿勢や、より望ましい言動等を評価してほめていかななくてはと改めて感じます。

この夏に感じたことも糧にして、これからも学校の教育活動改善に努めていきたいと思いました。まだ、残暑厳しい日が続くことと思います。引き続き、子どもたちの健康管理や学校の教育活動へのご理解とご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。



6年2組学級担任変更のお知らせ

◇夏季休業明けより、6年2組の担任は堀井華愛教諭が勤めます。学年によっては教科等の指導体制が変更になります。年度途中の変更で大変ご心配をおかけして申し訳ありませんが、ご理解とご協力のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。